金木支署における森林環境教育等の取組について

～就学前の園児から森林・木に親しむきっかけづくりのために～

津軽森林管理署金木支署

事務管理官　○三橋　浩恵
首席森林官　○山上　裕行
主事　　齊藤　俊介
　　永井　あおい

１　はじめに

津軽森林管理署金木支署（以下、金木支署という。）管内は、青森県津軽半島日本海側の二市三町の総面積約 9.6 万 ha のうち、森林面積は約 4.1 万 ha（43%）、うち国有林面積は約 3 万 ha（74%）と国有林率が高い地域です。また森林が市街地から近く、体験活動を行う森林環境教育の活動に適した地域と言えます。さらに日本森林学会による林業遺産に認定された全国最長の 283 ㎞を誇った津軽森林鉄道遺構群（写真１）や坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群（写真２）があり、古くから人と森林との関わりが深い地域でもあります。金木支署ではこのような地域特性を活かし、森林環境教育の推進として平成 24 年度に中泊町立中里中学校との間で「遊々の森（あすなろ自遊モリ森)」の協定を締結しています。国有林のフィールドを活用し、青森県木・中泊町木である青森ヒバについての学習や森林整備体験を現在まで 10 年間継続して行ってきました。また、小学生を対象とした「土地改良区との森林教室」のほか、平成 30 年度からは未就学園児（以下、園児という。）を対象とした「木育体験」も行っています。

今回、園児から小・中学生に対して行った森林・木に親しむきっかけづくりのための森林環境教育の取組を紹介します。

写真１　津軽森林鉄道遺構群

写真２　坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群

２　取組・研究方法

最初に紹介する「遊々の森」は「植樹や森林の整備体験を通じて青森県木であり町木でもある青森ヒバの森林を守り育てることや、その貴重な故郷の森林を後世に遺していくことの大切さを学んでいく」ことを目的とした取り組みです。活動は中学一年生から２カ年に渡るもので、一年次には青森ヒバや森林の機能等を紹介する森林教室、体験活動として

青森ヒバの空中取り木苗作製（写真３）、作製した苗木の植樹体験（写真４）を行います。二年次には前年度植樹した箇所の下刈体験（写真５）・測樹（写真６）及び補植体験を行います。この取組では安全対策を徹底して行いました。現地整備、蜂・熱中症や新型コロナウイルス感染症の対策のほか、刃物を含む道具類の使用があるため各班へ職員の配置を行いました。また事前に教職員を実施場所に案内し、危険と思われる箇所や不安なことがないか等確認してもらいました。「遊々の森」の活動は事前準備から実施日まで多数の職員が関わり 10 年間怪我などなく継続することができました。

写真３　空中取り木苗の作製

写真４　空中取り木苗の植樹

写真５　下刈体験

写真６　測樹体験

次に紹介する「土地改良区との森林教室」は小学生を対象とした取組です。土地改良区が主催する「農業水利体験」の一環としてのもので、金木支署も参加してきました。森林の水源涵養能力を学ぶ実験（写真７）を中心とし、林業遺産に認定された坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群や青森ヒバの紹介を行ってきました。令和４年度は林野庁監修の「うんこドリル」を紙芝居として取り入れ「森とくらし」についての学習（写真８）を行いました。

写真７　実験の様子

写真８　紙芝居

最後に紹介する園児を対象とした「木育体験」は、木にふれあい親しむことのきっかけづくりを目的として、平成 30 年度に青森県内の森林管理署では初めて取組を行いました。内容は県産材の「木製玩具」遊び（写真９）を中心とし、職員による寸劇（写真 10）などを取り入れ継続して行っています。

写真９　木製玩具遊び

写真 10　職員による寸劇

このように金木支署では園児から中学生までを対象として森林環境教育等を行ってきました。そしてこれらの取組後はアンケートを実施し、今後の森林環境教育の取組内容等に活かすことにしています。

３　結果

右図はこれまでのアンケート回答の抜粋です。(図１)「遊々の森」のアンケートでは、生徒から森林についての興味の声、教職員からは安全対策に対する感謝や今後も活動を継続してほしいとの言葉が多数ありました。「土地改良区との森林教室」では、水源涵養能力の実験を見た驚きの声があり、「木育体験」では、木のぬくもりや優しさを感じられたと喜びの声があったほか、令和３年度には「木の切れ端等で自由に表現できるような場があればもっと楽しいかな？」とあったことから、令和４年度の「木育体験」の中で新たな取組を行うことにしました。

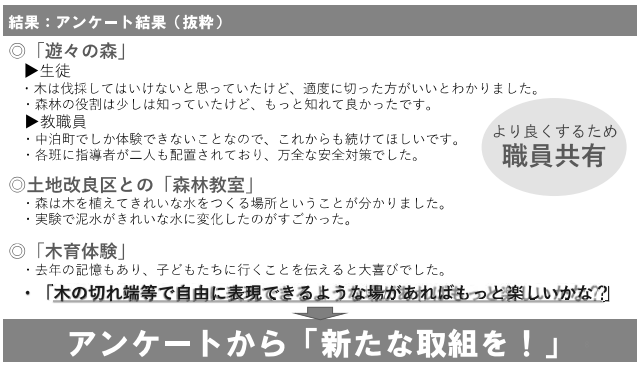

図１　アンケート結果（抜粋）

令和４年度はより木に触れる体験として木製玩具遊びに加え「もりのクラフト」と題したヒバ・スギ端材への絵かき体験を行いました。（写真 11－13）端材の角にはサンドペーパーで丸みを付け、ケガ防止対策を講じました。また実施時期が 12 月でクリスマスが近いことから、まつぼっくりを用いたクリスマスオーナメントの作成と職員手作りのペーパーツリーへの飾り付けも行いました。（写真 14･16）当日はサンタクロースに扮した職員がペーパーツリーを持って登場するサプライズを取り入れたところ園児たちは大喜びし、より楽しく体験している様子でした。

このように、参加者の声から新たな取組にも積極的に挑戦しています。取組後の参加者の声の中には、今後の課題や要望もあり次回の取組に活かすことにしています。また森林

に対する興味・関心をもったことや感謝の声が多数あったことが、これらの取組に携わった職員の励みに繋がってきました。（図２）

写真 11

写真 12

写真 13

写真 14

写真 15

写真 16

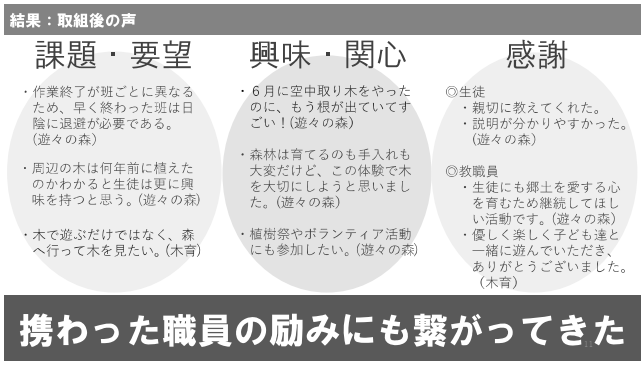

図２　取組後の声

４　考察・結論

今後の金木支署での取組のポイントとしては参加者が安全に安心して取り組めることを第一とし、アンケート結果を職員と共有することでより良い内容となることを目指します。また参加者の意見を聞いて新たな取組を加えながら継続していきます。（図３）

そして、「遊々の森」を体験した生徒が地元農林高校に進学し、その後林野庁に入庁している事例がありました。その職員にアンケートを行ったところ、「「遊々の森」の体験で林業など木に関わる仕事に興味を持ち、進路決定のきっかけになった」との回答がありました。（図４）高校入学後の実習でも当時の体験や知識が活かされ、就職後でも参考となったと答えてくれました。「遊々の森」での体験をきっかけに、「森林・林業に対する知識が身につき、その後の将来を具体的に考えることができた。」とも回答してくれました。（図５）このような入庁事例は、「遊々の森」を行ってきた金木支署としては大変喜ばしいことであり、こうした事例が森林環境教育等を通して一つでも増えることが望ましいと考えます。

最後に、園児から中学校までの森林環境教育等の取組を行うことは、子どもたちにより一層森林に興味を持ってもらえるものと考えています。また、安全・安心について信頼があったからこそ続けてこられた取組です。今後も森林環境教育等の取組を継続し、要望等があれば取り入れてより良い取組としていきたいと思います。

考察：今後の取組ポイント

✓参加者の安全・安心が第一！

✓アンケートを実施・共有することでより良く！

✓参加者の声を聞くことで新たな取組を！

今後もより良い取組を継続していく！

図３　今後の取組ポイント

考察：入庁した職員へのアンケート①

「遊々の森」を体験した生徒が、その後地元農林高校に進学、林野庁に入庁している職員がいる。

Ｑ１　「遊々の森」を体験し、良かったことは何ですか？

Ａ１　体験する前は、卒業後の進路に悩んでいましたが、「**遊々の森**」で、**林業など木に関わる仕事に興味を持つようになりました。**

「遊々の森」体験が進路決定のきっかけになった！

図４　入庁した職員のアンケート

考察：入庁した職員へのアンケート②

Ｑ２　「遊々の森」を体験し、その後参考になったことはありますか？

Ａ２　・高校入学後は下刈りや植樹、収穫調査の**実習をスムーズ**に行えました。
・就職後は森林環境教育者の立場となり、不安はあったが、**当時の内容を参考に業務を行えました。**

進学後の実習や就職後の業務の取組方に参考になった！

Ｑ３　その他何かありますか？

Ａ３　林業体験できる機会は限られているし、**体験してみないと森林や林業の知識が曖昧なまま**になってしまうと思います。若いうちから **正しい知識を身につけることが、進路の候補の一つ**になると思います。

体験が理解につながり、進路の選択肢のひとつとなった！

図５　入庁した職員のアンケート

５　参考文献等

（１）　市町村別森林率：青森県森林資源統計書

（２）　県別国有林率：東北森林管理局ホームページ

（３）　うんこドリルイラスト：林野庁×うんこドリル「うんこドリル森とくらし」林野庁（maff.go.jp）